

JOMF 派遣医師便り (2013. 2)

◆シンガポール◆ デング熱

シンガポール日本人会クリニック
日暮 浩実

今年に入り、デング熱の患者数が著増しています。昨年(年間総患者数 4632 人)は第 5 週までのデング熱患者数は 338 名でしたが、今年には既に 1121 名となっています。ちなみに過去 5 年間の平均は 470 人(1 年間の平均患者数は 5376 人)とのことです。

実は、今世紀に入りシンガポールのデング熱患者数は急増しました。2000 年の 673 人から 2005 年には 14209 人となりました。このため、国を挙げてのデング熱対策が行われ翌 2006 年には 3126 人にまで減りましたが、その翌年 2007 年には 8826 人まで再び増加してしまいました。デング熱対策がいかに難しいかを表しているといえるでしょう。その後、沈静化の傾向にありましたが、また、今年著明な増加傾向がみられています。

国立環境庁の発表によれば、これは、今まであまり多くなかったデング I 型が増えてきていることと関係しているとのことです。今まで当地ではあまり多くなかったタイプのため、住民の集団免疫力が低いと考えられます。

デング熱のワクチンは開発中ですが、未だに一般に使用できるものはないため、デング熱対策はデング熱を媒介する蚊の撲滅が最も重要となります。蚊を撲滅するには発生源をなくすことが最も大切です。落ち葉の上の小さなため水ですら、蚊の発生源となるとされ、小さなものであっても、とにかくため水を作らないということが大切とされています。

デング熱から身を守るために、**<デング熱撲滅～10 分でできる 5 ステップ>**というものが発表されています。

1. 花瓶の水は一日おきに取り替える。
2. 水が溜まりそうな器状の物は、全てひっくり返しておき、水がたまらないようにする。
3. もの干し竿用の竹またはポールの先端はふさいでおく(竹や金属製のポール(中が中空)が物干し竿に使われています)。
4. 排水溝のつまりはなくし、雨どいには殺虫剤を月に一回はまくこと。
5. 鉢植えの下皿の水は一日おきに捨てること。

デング熱が多く発生している地域の人には、特に、たまり水をなくすように注意し、蚊の忌避剤を使用し、暗がり(ベッド、ソファの下やカーテンの裏など)に殺虫剤を毎日噴霧することが勧められています。デング熱の患者さんは空調の効いた部屋に寝て、虫除けをつけることが勧められます。これは感染の鎖を断ち切るために必要なことです。

政府は国を挙げてデング対策に取り組み、LTA(Land transport authority ,交通警察的な役所)、HDB(The Housing & Development Board ,住宅公団)、PUB(水道局)、Nparks (National parks board 公園管理局)、Town council (地区の行政局)などが一体となって、デング熱対策にあたることになっています。屋外にデング熱が発生するような源はないか、調べて回るのがその役目です。

国をあげてのキャンペーンやビラ配り、またデング熱対策の知識をひろめる草の根運動も進められています。

デング熱の発生が多くなった地域の住民はインターネット上で政府のデング熱のサイト (dengue.gov.com.sg) を訪問することが勧められます。また、蚊の発生源を見つけた場合には NEA の 24 時間ホットラインに電話することが求められています。そうすることにより、上記のような役所や Town council が調査し、発生源を除去することになります。

住民の意識を高め、自分で自分を守ることで、結果的に地域全体としてデング熱が発生しにくい環境を作ろうということかと思えます。